

対立と合意

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

人は社会の中でどう生き、意見が対立したときはどう解決すればよいだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 社会集団と私たち

家族・地域

しゃかいてきそんざい
社会的存在

人と関わり合いながら生きる存在。

しゃかいしゅうだん
社会集団

家族・学校・地域など人が所属する集団。

かくかぞく
核家族

夫婦と子どもなど少人数でつくる家族。

人は、ひとりでは生きていけず、生まれたときから家族をはじめとするさまざまな集団の中で育つ。このように、人が社会の中でほかの人と関わり合いながら生きる存在であることを**社会的存在**という。家族、学校、地域、会社など、人が所属する集団を**社会集団**という。人は同時に複数の社会集団に所属し、それぞれで役割を果たしている。たとえば、ある人は家庭では子ども、学校では生徒、地域のクラブでは仲間として、それぞれちがう立場で行動する。

最も身近な社会集団が**家族**である。夫婦と子どもなど少人数でつくる**核家族**のほか、三世代が暮らす世帯もある。近年は、ひとりで暮らす**単独世帯**が増えている。家族は、人が最初に生活のしかたや価値観を身につける場である。また、同じ土地に住む人が助け合う**地域社会**は、防災や祭りなどの行事、子育ての支えとなる。人は集団の中で守るべききまりを学び、ほかの人とつながりをもって成長していく。

2 対立と合意

話し合い・多数決

たいりつ
対立

考え方や利害のちがいで意見がぶつかること。

ごうい
合意

話し合って全員が納得すること。

たすうけつ
多数決

賛成の多い意見に決める方法。

集団の中では、考え方や利害のちがいがから**対立**が起こる。対立を放置せず、**話し合い**で解決をめざすことで、全員が納得できる**合意**に近づける。話し合いでは、立場のちがう人の意見をよく聞き、理由をあげて自分の考えを述べるのが大切だ。話し合いを重ねるうちに、はじめは気づかなかった解決の方法が見つかることもある。

全員が賛成することを**全会一致**というが、むずかしい場合は、賛成の多い意見に決める**多数決**がよく使われる。多数決は短時間で決められる長所があるが、少数の意見が切り捨てられるおそれがある。そのため、少数の意見も十分に聞き、できるだけ取り入れる**少数意見の尊重**が欠かせない。決まったことには、みんなが責任をもって従い、必要があれば、あとで見直すこともできる。



問いへの答え

人は家族や地域などの社会集団の中で、ほかの人と関わり合いながら生きる社会的存在である。集団の中で意見が対立したときは、話し合いで全員が納得できる合意をめざし、多数決で決めるときは少数意見を尊重して、決まったことにはみんなで責任をもって従う。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

